

事業所活動紹介

各事業所の取り組みについて
紹介いたします。

『社会経験、選択の機会を大切に』

デイサポートにじいろ

にじいろでは日々の「働く活動」で行っている名刺作りに加え、月1回のお楽しみ活動や年1回のグループ外出など「社会経験」「選択の機会」を大切に活動提供を行っています。

お楽しみ活動では季節に合わせた行事のほか、バイキング形式の昼食、クレープ屋さんのキッチンカー来所、近隣店舗への昼食購入外出などを行いました。特に近隣店舗への昼食購入外出は初めての取り組みでしたが、「自分で好きな食事を選んで購入する」という、日頃私たちが何気なくしていることを利用者にも体験していただくことができ、貴重な体験になったようです。

また、バイキング昼食では、当初は自分で選ぶことが難しかった利用者も、回を重ねるにつれ「いる」「いない」と意思表示をされたり、中には本当のバイキングのように好きな物を選んでお皿に乗せたりと選択することができるようになってきました。

グループ外出ではリナワールド、仙台うみの杜水族館、電車の旅、グルメ旅の中から好きなコースを選んで参加していただきました。日常とは異なる活動の

中で、どこに行くか、何を食べるか、お土産は何にするかなど、様々な場面で選択していただく機会となりました。

これからも「社会経験」や「選択の機会」を大切にしながら活動提供を行っていきたいと考えています。

〔デイサポートにじいろ 支援員リーダー 大場 祥子〕



『居場所作り』

地域活動
支援センター天花

地活天花は、フリースペースとなっているため、利用する目的はそれぞれ異なり、活動内容も十人十色となっています。その中で共通していることが「居場所作り」です。

ある方は、就労継続支援B型を利用しながら、お休みの日に顔を出してくれます。頑張ったこと・辛かったことを



振り返りながら、自分の気持ちを確認するようにお話してくれます。ある方は、生活での悩みごとや嬉しかったことをお話してくれます。ある方は、体調の様子を確認するように地活天花に来所します。来所した際には、体調が安定している証拠にもなり、本人も自身の体調に気づくこともできているようです。また、ある方は人とお話がしたくて来所され、人の中で過ごすこと、人の温かみを感じながら過ごしています。

フリースペースだからできる「居場所作り」。それは、それぞれの生活に寄り添い、それぞれが安心できる居場所、そして人と社会を感じられる居場所ではないかと思います。地活天花は、活動に利用者が参加するのではなく、利用者がしていること自体が「活動」であり、「それぞれの居場所」となります。職員は、利用者のお話を聞きながら、一緒に悩み一緒に考え、他の利用者の経験や知恵を借りながら、それぞれが「その時」に求めている「居場所」を、利用者と力を合わせながら、探し求め作り続けています。

〔地域活動支援センター天花 支援員リーダー 仲川 幸博〕

愛泉会 セミナー

1人ひとりが学び成長できる職場となるよう、今年も法人内・事業所内の研修に力をいれています。

管理職研修を受講して

今年度新しく管理職になる職員を対象に、管理職研修が開催されました。全体の研修も含め年間6回ほど予定されています。

第1回目では、庄司理事長と豊田事務局長より講話がありました。今回の参加者は、今年度管理職になった4名と、希望した所長3名の計7名で受講しました。最初に理事長より「管理職としての心得及び期待すること」をテーマに、愛泉会の成り立ちや法人としての人材育成・心得の話がありました。『困ったときには本屋に行け』との話で、理事長自身も実践されており、経営学や管理職として同じ悩みを持った方が執筆している本を読むことで悩みの共有や解決の糸口が見いだせるとのことでした。私自身どのような解決方法があるのか糸口を見出すために必要なことを確認したかったため、実践していきたいと思いました。事業所職員のモチベーションの

部分にも関わってくるため、コミュニケーションを取りながら風通しの良い事業所を作り上げられるように心掛けること、また、管理職として経営の部分にも携わってくるため、経営とは『事業所、法人が明日もあること』という意識・考え方で取り組む心構えを学びました。

次に事務局長より、規定に関すること、予算書の初歩的な見方等、事務的な業務全般についてお話がありました。事務文書の発行の仕方では、基本的な部分から、何故この取り扱いが必要なのか、詳細な部分まで学び、初めて聞く言葉もありましたが、理解を深めることができました。

次回以降開催される研修でも重要な内容が盛り込まれているので、管理職としての理解を深め、今までの先輩方、利用者が築き上げてきた愛泉会をこれまで以上に良いものにできるよう取り組んでいきたいと思っています。

〔児童デイサービス月のひかり 所長 半田 史良〕

山形県知的障害者福祉協会総会 及び 施設長・管理者等研修会に参加して

令和8年4月23日(木)に「山形県知的障害者福祉協会 総会及び施設長・管理者等研修会」がヒルズサンピア山形にて開催されました。基調講演・中央情勢報告、令和8年度山形県知的障害者福祉協会総会及び各部会に分かれての情報交換会など有益な内容の研修会でした。

基調講演では、筑波大学名誉教授 小澤温氏による「意思決定支援・権利擁護・居住支援に関する障害福祉の動向」について講話があり「次期報酬改定に向けての積み残し課題」「障害者支援施設の今後のあり方」「共同生活援助(グループホーム)と日中支援型グループホームの今後のあり方」についてお聞きしました。

特に「意思決定支援における管理者の役割」では、私自身事業所を管理する立場として、サービス管理責任者

をはじめ事業所職員へ利用者の自己決定の尊重と意思決定支援に配慮するよう指導と助言を行うことと、日々のサービス提供場面における利用者の表情や感情、行動等に関する記録の重要性をより一層周知していく必要を感じました。事業所を利用されている皆さんの自己実現に向け、事業所としての共通のルール(風土作り)なども今後再確認していきたいと思っています。

また、当日資料に掲載されていた障害者虐待防止・権利擁護関連から、障害者福祉施設従事者等による障害者虐待事案件数が年々増加の一途をたどる状況となっていることを知りました。管理者として、職員との円滑なコミュニケーションや1人にならないような支援体制の構築、そして事業所全体への啓発を自ら発信する等、虐待の防止と利用者の人権擁護に繋げるための継続した取り組みが重要だということを改めて認識しました。

最後に、各部会に分かれての情報交換会では、各施設での現状や課題等を共有することができ、良い機会となりました。

〔デイサポートさくら 所長 北島 英幸〕

